

大崎海星高と広島商船高専

「島の仕事」共同で冊子

大崎上島町の大崎海星高と広島商船高専の生徒が共同で、福祉に関する冊子作りに取り組んでいる。町商工会



インタビュー記事に添える写真の撮影を練習する両校の生徒

の依頼を受け、貴重な連携の機会ができた。

両校から2年生以下の9人ずつ計18人が携

わる。11月上旬、大崎海星高で互いをモデルに写真撮影の仕方を練習。その後は分担して施設に向き、介護福祉士や事務職員

たち16人に仕事の内容ややりがいを尋ねている。

冊子は「島の仕事図鑑」。B6判、十数冊になる予定。編集の後、3月に5千部を出版し、県外の移住セミナーなどで配る。

町商工会は2015年から「造船」「農業」などをテーマに3冊を出版。製作は全て大崎海星高が請け負った。広島商船高専への依頼は今回初めて。

両校によると、県立高と国立の学校間では教員のつながりが薄く、活動をともにする機会は少ないという。

「うまく話せるか不安だったけど、すぐに仲良くなれた」と大崎海星高2年の中西実卵さん(16)。高専の商船学科2年大西葉奈さん(17)は「交流で世界を広げ、いいものを作りたい」と話している。

(山田祐)